

- ・回答者が父親である
- ・祖父母と同居していない家庭の保護者
- (6) 性行動の自己決定
- ・女兒をもつ保護者
- ・年齢が若い保護者
- (7) 性に関する適切な情報提供
- ・現在職についていない保護者
- (8) 性行動を低リスクにすること
- ・有意差なし
- (9) 性感染症率・妊娠率・人工妊娠中絶率を低下させること (表37)
- ・女兒をもつ保護者
- ・年齢が若い保護者
- ・子どもが低学年である
- ・親子で性の会話をしている
- ・子どもと充実した時間を過ごせていない
- (10) 避妊実行率、性感染症防止実行率を向上させること
- ・年齢が若い保護者
- ・低学年である
- ・子どもの数が1人である
- (11) 性交開始年齢を上昇させること
- ・親子での会話をしていない
- (12) 自己肯定感をつけること (表38)
- ・子どもとの充実した時間が過ごせていない
- (13) コミュニケーション力をつけること (表39)
- ・回答者が父親である
- ・男児をもつ保護者
- ・祖父母と同居している家庭の保護者
- ・子どもの性の発達に困りごとがない保護者

#### 2.4. 子どもの性の成長発達についての保護者の認識

保護者の認識における子どもの性の成熟度と性の関心度との関連、親子での性の会話と子どもの性の成熟度・関心度についての保護者の認識との関連、子どもの性の発達に関する困りごとと子どもの性の成熟度・関心度についての保護者の認識との関連、親子での性の会話と子どもの性の発達に関する困りごととの関連は、いずれも有意な関連があることがわかった ( $p < 0.01$ ) (表40~41)。

#### V. 考察

今回の調査結果から得られた知見を以下に示す。

#### 1. 子どもの性の成長発達に関する保護者の認識の違いへの考慮

表18のとおり、女兒をもつ保護者のほうが男児をもつ保護者に比べ、子どもの性の成長発達が早いと認識している傾向にある結果であった。学校で行われる性教育に望むことも、男児と女兒を持つ保護者の間で差がみられ、表30のとおり保護者のニーズは多様であった。

これらから子どもの成長発達に関する保護者の認識に個人差があることを考慮していくと、学校性教育において男女一律の難しさが示唆された。そのため現行の学校でのクラスや学年一律による集団教育方式について、今後課題を与えるものとなった。

#### 2. 子どもの性と親子関係や環境との関連

子どもの性の発達に困っている保護者は、親子関係や夫婦関係、生活習慣が不安定な傾向にあった。子どもが過ごしやすい環境として整っていなかった。これらの不安定さが、今後子どもの性の成長発達に影響を及ぼす恐れが考えられた。

#### VI. まとめ

小学生をもつ保護者を対象に、親子関係・環境と性関する意識との関連をみるための調査をおこなった。得られた知見を以下に示す。

1. 小学生では、子どもの性の発達に困っていない保護者は94.2%であった。
2. 親子関係や夫婦関係の不安定さと子どもの性の成熟度や関心度に対する保護者の認識とは、関連があった。
3. 子どもが過ごしやすい環境になっていないと感じている保護者のほうが、子どもの性の成長発達に関する困りごとがあった。
4. 就労している保護者のほうが、子どもの性の成長発達が早めだと回答するものが多かった。
5. 小学生で性の会話をしている親子は、24.2%いた。
6. 学校性教育に望むことは、「命の大切さを伝えること」「性について正しい知識をつけること」「豊かな人間を形成すること」などの回答が多かった。多様であった。
7. 「命の大切さ」は、多くの保護者が望む学校性教育であった。
8. 学校性教育への期待に「コミュニケーション

力をつけること」と回答した保護者は、男児を持つ保護者に多い傾向にあった。

9. 学校性教育への期待に「意図しない妊娠を避けること」を回答した保護者は、普段親子のつながり感が持てていない傾向にあった。
10. 親子で性の会話をしているものと、学校性教育への期待で「性感染症率・妊娠率・人工妊娠中絶率を低下させること」「意図しない妊娠をさける」を回答したもののとの関連があった。

## VII. 参考文献

1. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～，日本性教育協会（J A S E）研究月報，2004. 5
2. 松浦賢長：いのちを教える，児童心理臨時増刊号，2005. 1
3. 松浦賢長，他：学校性教育をめぐる連携の理論構築に関する基礎的研究～性教育学を構築していくための試練の第一歩として～，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
4. 松浦賢長，他：新しい性教育の展開に関する基礎的研究，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
5. 松浦賢長，他：親子間の性に関する会話と子どもの性行動との関連，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
6. 松浦賢長，他：性に関する情報源と性知識を得るべき年齢に関する全国無作為抽出調査，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2003
7. 男女の生活と意識に関する調査，日本家族計画協会，2002
8. 健やか親子21検討会，健やか親子21検討会報告書—母子保健の2010年までの国民運動計画—，厚生省（現厚生労働省）

表1 Q26 子どもの性の発達について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 とても困っている	12	0.5	0.5	0.5
	2 ある程度困っている	124	5.1	5.3	5.8
	3 あまり持っていない	1400	57.8	59.7	65.5
	4 まったく困っていない	809	33.4	34.5	100
	合計	2345	96.9	100	
欠損値	システム欠損値	76	3.1		
合計		2421	100		

表2 親子のつながり感と子どもの性の発達に関する困りごととの関係

			Q26 子どもの性の発達について				合計
			1 とても困っている	2 ある程度困っている	3 あまり困っていない	4 まったく困っていない	
Q6 親子のつながり感	1 十分に持っている	度数	3	35	550	439	1027
		Q6 親子のつながり感の%	.3%	3.4%	53.6%	42.7%	100.0%
	2 ある程度持っている	度数	7	81	812	350	1250
		Q6 親子のつながり感の%	.6%	6.5%	65.0%	28.0%	100.0%
	3 あまり持っていない	度数	2	8	35	17	62
		Q6 親子のつながり感の%	3.2%	12.9%	56.5%	27.4%	100.0%
合計	度数	12	124	1397	806	2339	
	Q6 親子のつながり感の%	.5%	5.3%	59.7%	34.5%	100.0%	

p<0.01

表3 子育て不向き感と子どもの性の発達に関する困りごととの関係

			Q26 子どもの性の発達について				合計
			1 とても困っている	2 ある程度困っている	3 あまり困っていない	4 まったく困っていない	
Q8 子育て不向き感	1 よく感じることもある	度数	4	13	94	53	164
		Q8 子育て不向き感の%	2.4%	7.9%	57.3%	32.3%	100.0%
	2 時々感じることもある	度数	3	77	681	354	1115
		Q8 子育て不向き感の%	.3%	6.9%	61.1%	31.7%	100.0%
	3 あまり感じることはない	度数	4	29	538	292	863
		Q8 子育て不向き感の%	.5%	3.4%	62.3%	33.8%	100.0%
	4 まったく感じることはない	度数	0	4	66	102	172
		Q8 子育て不向き感の%	.0%	2.3%	38.4%	59.3%	100.0%
合計	度数	11	123	1379	801	2314	
	Q8 子育て不向き感の%	.5%	5.3%	59.6%	34.6%	100.0%	

p<0.01

表4 生活リズムと子どもの性の発達に関する困りごととの関係

			Q26 子どもの性の発達について				合計
			1 とても困っている	2 ある程度困っている	3 あまり困っていない	4 まったく困っていない	
Q21A 生活リズム	1 生活リズムが整っている	度数	7	100	1218	712	2037
		Q21A 生活リズムの%	.3%	4.9%	59.8%	35.0%	100.0%
	2 生活リズムが整っていない	度数	4	21	145	67	237
		Q21A 生活リズムの%	1.7%	8.9%	61.2%	28.3%	100.0%
合計	度数	11	121	1363	779	2274	
	Q21A 生活リズムの%	.5%	5.3%	59.9%	34.3%	100.0%	

p<0.01

表5 ボランティア活動と子どもの性の発達に関する困りごととの関係

		Q26 子どもの性の発達について				合計	
		1 とても困っている	2 ある程度困っている	3 あまり困っていない	4 まったく困っていない		
Q19 ボラ ンテ ィア活 動	1 現在、活動している	度数	0	7	35	26	68
		Q19 ボランティア活動の%	.0%	10.3%	51.5%	38.2%	100.0%
	2 以前、したことがある	度数	3	25	252	131	411
		Q19 ボランティア活動の%	.7%	6.1%	61.3%	31.9%	100.0%
	3 まったくしたことがない	度数	6	76	950	565	1597
		Q19 ボランティア活動の%	.4%	4.8%	59.5%	35.4%	100.0%
	4 わからない	度数	3	14	129	53	199
		Q19 ボランティア活動の%	1.5%	7.0%	64.8%	26.6%	100.0%
合計	度数	12	122	1366	775	2275	
	Q19 ボランティア活動の%	.5%	5.4%	60.0%	34.1%	100.0%	

p<0.05

表6 家庭内環境と子どもの性の発達に関する困りごととの関係

		Q26 子どもの性の発達について				合計	
		1 とても困っている	2 ある程度困っている	3 あまり困っていない	4 まったく困っていない		
Q20 家庭 内環 境	1 十分なっている	度数	1	26	301	264	592
		Q20 家庭内環境の%	.2%	4.4%	50.8%	44.6%	100.0%
	2 ある程度なっている	度数	7	79	961	477	1524
		Q20 家庭内環境の%	.5%	5.2%	63.1%	31.3%	100.0%
	3 あまりなっていない	度数	2	17	100	39	158
		Q20 家庭内環境の%	1.3%	10.8%	63.3%	24.7%	100.0%
	4 まったくなっていない	度数	2	1	3	1	7
		Q20 家庭内環境の%	28.6%	14.3%	42.9%	14.3%	100.0%
合計	度数	12	123	1365	781	2281	
	Q20 家庭内環境の%	.5%	5.4%	59.8%	34.2%	100.0%	

p<0.01

表7 地域環境と子どもの性の発達に関する困りごととの関係

		Q26 子どもの性の発達について				合計	
		1 とても困っている	2 ある程度困っている	3 あまり困っていない	4 まったく困っていない		
Q22 地域 環境	1 十分なっている	度数	1	27	385	309	722
		Q22 地域環境の%	.1%	3.7%	53.3%	42.8%	100.0%
	2 ある程度なっている	度数	7	74	858	412	1351
		Q22 地域環境の%	.5%	5.5%	63.5%	30.5%	100.0%
	3 あまりなっていない	度数	4	18	111	58	191
		Q22 地域環境の%	2.1%	9.4%	58.1%	30.4%	100.0%
	4 まったくなっていない	度数	0	2	14	5	21
		Q22 地域環境の%	.0%	9.5%	66.7%	23.8%	100.0%
合計	度数	12	121	1368	784	2285	
	Q22 地域環境の%	.5%	5.3%	59.9%	34.3%	100.0%	

p<0.01

表8 子どもの学年と子どもの性の発達に関する困りごととの関係

			Q26 子どもの性の発達について				合計
			1 とても困っている	2 ある程度困っている	3 あまり困っていない	4 まったく困っていない	
H.H 学年変換(低・中・高学年別)	1 低学年(1-2年生)	度数	2	21	231	231	485
		H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	.4%	4.3%	47.6%	47.6%	100.0%
	2 中学年(3-4年生)	度数	3	39	461	258	761
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	.4%	5.1%	60.6%	33.9%	100.0%	
	3 高学年(5-6年生)	度数	7	62	697	316	1082
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	.6%	5.7%	64.4%	29.2%	100.0%	
合計		度数	12	122	1389	805	2328
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%		.5%	5.2%	59.7%	34.6%	100.0%

p<0.01

表9 群れ遊びと子どもの性の発達に関する困りごととの関係

			Q26 子どもの性の発達について				合計
			1 とても困っている	2 ある程度困っている	3 あまり困っていない	4 まったく困っていない	
Q5 群れ遊びの状況	1 よくしている	度数	2	46	669	435	1152
		Q5 群れ遊びの状況の%	.2%	4.0%	58.1%	37.8%	100.0%
	2 時々している	度数	2	40	502	242	786
		Q5 群れ遊びの状況の%	.3%	5.1%	63.9%	30.8%	100.0%
	3 あまりしていない	度数	2	30	193	105	330
	Q5 群れ遊びの状況の%	.6%	9.1%	58.5%	31.8%	100.0%	
	4 まったくしていない	度数	4	8	34	23	69
	Q5 群れ遊びの状況の%	5.8%	11.6%	49.3%	33.3%	100.0%	
	5 把握していない	度数	1	0	1	1	3
	Q5 群れ遊びの状況の%	33.3%	.0%	33.3%	33.3%	100.0%	
合計		度数	11	124	1399	806	2340
	Q5 群れ遊びの状況の%		.5%	5.3%	59.8%	34.4%	100.0%

p<0.01

表10 Q27 子どもの性の発達で困っていること

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
お子さんの体の成長について	Q27-1	483	10.6	26.2
思春期の子どもの心理面、扱い方	Q27-2	1261	27.7	68.3
異性を好きになることについて	Q27-3	57	1.3	3.1
異性との行動について(家の行き来など)	Q27-4	143	3.1	7.7
性の情報が子どもの目に触れること	Q27-5	781	17.1	42.3
性について聞かれたときの答え方	Q27-6	974	21.4	52.8
親から子への性教育が必要か	Q27-7	389	8.5	21.1
親自身も今の正しい性教育を学びたい	Q27-8	264	5.8	14.3
パートナーが協力的でない	Q27-9	72	1.6	3.9
子どもの性について相談できる相手がいない	Q27-10	80	1.8	4.3
その他	Q27-11	55	1.2	3.0
	Total responses	4559	100.0	247.0

575 missing cases; 1,846 valid cases

表11 子どもの性の関心度に対する保護者の認識

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 とても持っている	37	1.5	1.6	1.6
	2 ある程度持っている	636	26.3	27	28.6
	3 あまり持っていない	1024	42.3	43.5	72.2
	4 まったく持っていない	344	14.2	14.6	86.8
	5 わからない(気にしたことがない)	311	12.8	13.2	100
	合計	2352	97.1	100	
欠損値	システム欠損値	69	2.9		
合計		2421	100		

表12 子どもの学年と子どもの性に対する保護者の認識との関係

		Q28 子どもの性の関心度					合計
		1 とても持っている	2 ある程度持っている	3 あまり持っていない	4 まったく持っていない	5 わからない(気にしたことがない)	
学年(低・中・高学年別)	1 低学年(1-2年生) 度数	3	70	195	145	75	488
	H.H. 学年変換(低・中・高学年別)の%	.6%	14.3%	40.0%	29.7%	15.4%	100.0%
2 中学年(3-4年生) 度数	9	176	346	117	116	764	
	H.H. 学年変換(低・中・高学年別)の%	1.2%	23.0%	45.3%	15.3%	15.2%	100.0%
3 高学年(5-6年生) 度数	23	387	476	80	117	1083	
	H.H. 学年変換(低・中・高学年別)の%	2.1%	35.7%	44.0%	7.4%	10.8%	100.0%
合計	度数	35	633	1017	342	308	2335
	H.H. 学年変換(低・中・高学年別)の%	1.5%	27.1%	43.6%	14.6%	13.2%	100.0%

p<0.01

表13 夫婦の仲と子どもの性の関心度に対する保護者の認識との関係

		Q28 子どもの性の関心度					合計
		1 とても持っている	2 ある程度持っている	3 あまり持っていない	4 まったく持っていない	5 わからない(気にしたことがない)	
Q21F 夫婦の仲	1 夫婦の仲がよい 度数	30	496	856	281	238	1901
	Q21F 夫婦の仲の%	1.6%	26.1%	45.0%	14.8%	12.5%	100.0%
2 夫婦の仲が悪い 度数	6	72	67	30	37	212	
	Q21F 夫婦の仲の%	2.8%	34.0%	31.6%	14.2%	17.5%	100.0%
合計	度数	36	568	923	311	275	2113
	Q21F 夫婦の仲の%	1.7%	26.9%	43.7%	14.7%	13.0%	100.0%

p<0.01

表14 親子のつながり感と子どもの性の関心度に対する保護者の認識との関係

		Q28 子どもの性の関心度					合計
		1 とても持っている	2 ある程度持っている	3 あまり持っていない	4 まったく持っていない	5 わからない(気にしたことがない)	
Q6 親子のつながり感	1 十分に持っている	度数 17	252	436	181	142	1028
	Q6 親子のつながり感の %	1.7%	24.5%	42.4%	17.6%	13.8%	100.0%
	2 ある程度持っている	度数 15	368	564	151	156	1254
Q6 親子のつながり感の %	1.2%	29.3%	45.0%	12.0%	12.4%	100.0%	
3 あまり持っていない	度数 5	16	22	11	11	65	
	Q6 親子のつながり感の %	7.7%	24.6%	33.8%	16.9%	16.9%	100.0%
合計	度数	37	636	1022	343	309	2347
	Q6 親子のつながり感の %	1.6%	27.1%	43.5%	14.6%	13.2%	100.0%

p<0.01

表15 親子での遊びの頻度と子どもの性の関心度に対する保護者の認識との関係

		Q28 子どもの性の関心度					合計
		1 とても持っている	2 ある程度持っている	3 あまり持っていない	4 まったく持っていない	5 わからない(気にしたことがない)	
Q03 親子での遊びの頻度	1 よく遊べている	度数 1	72	122	63	36	294
	Q03 親子での遊びの頻度の %	.3%	24.5%	41.5%	21.4%	12.2%	100.0%
	2 時々遊べている	度数 20	318	536	159	156	1189
Q03 親子での遊びの頻度の %	1.7%	26.7%	45.1%	13.4%	13.1%	100.0%	
3 ほとんど遊べていない	度数 14	226	333	110	108	791	
	Q03 親子での遊びの頻度の %	1.8%	28.6%	42.1%	13.9%	13.7%	100.0%
4 まったく遊べていない	度数 2	20	25	10	9	66	
	Q03 親子での遊びの頻度の %	3.0%	30.3%	37.9%	15.2%	13.6%	100.0%
合計	度数	37	636	1016	342	309	2340
	Q03 親子での遊びの頻度の %	1.6%	27.2%	43.4%	14.6%	13.2%	100.0%

p<0.01

表16 生活リズムと子どもの性の関心度に対する保護者の認識との関係

		Q28 子どもの性の関心度					合計
		1 とても持っている	2 ある程度持っている	3 あまり持っていない	4 まったく持っていない	5 わからない(気にしたことがない)	
Q21A 生活リズム	1 生活リズムが整っている	度数 27	549	901	302	265	2044
	Q21A 生活リズムの %	1.3%	26.9%	44.1%	14.8%	13.0%	100.0%
	2 生活リズムが整っていない	度数 9	70	94	26	38	237
Q21A 生活リズムの %	3.8%	29.5%	39.7%	11.0%	16.0%	100.0%	
合計	度数	36	619	995	328	303	2281
	Q21A 生活リズムの %	1.6%	27.1%	43.6%	14.4%	13.3%	100.0%

p<0.01

表17 Q29 子どもの性の成熟度に対する保護者の認識

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 とても早い ほうだと思ふ	32	1.3	1.4	1.4
	2 やや早いほ うだと思ふ	330	13.6	14.3	15.7
	3 やや遅いほ うだと思ふ	879	36.3	38.1	53.7
	4 とても遅い ほうだと思ふ	250	10.3	10.8	64.6
	5 わからない (気にかけたこ とがない)	818	33.8	35.4	100
	合計	2309	95.4	100	
欠損値	システム欠損値	112	4.6		
合計		2421	100		

p<0.01

表18 子どもの性別と子どもの性の成熟度に対する保護者の認識との関係

			Q29 子どもの性に関する成熟					合計
			1 とても早い ほうだと思ふ	2 やや早い ほうだと思ふ	3 やや遅い ほうだと思ふ	4 とても遅い ほうだと思ふ	5 わからない (気にかけた ことがない)	
G 子 もの性 別	1 男	度数	7	129	453	130	428	1147
		G 子どもの性別の%	.6%	11.2%	39.5%	11.3%	37.3%	100.0%
	2 女	度数	24	198	422	118	385	1147
		G 子どもの性別の%	2.1%	17.3%	36.8%	10.3%	33.6%	100.0%
合計		度数	31	327	875	248	813	2294
		G 子どもの性別の%	1.4%	14.3%	38.1%	10.8%	35.4%	100.0%

p<0.01

表19 保護者の就労状況と子どもの性の成熟度に対する保護者の認識との関係

			Q29 子どもの性に関する成熟					合計
			1 とても早い ほうだと思ふ	2 やや早い ほうだと思ふ	3 やや遅い ほうだと思ふ	4 とても遅い ほうだと思ふ	5 わからない (気にかけた ことがない)	
F 就 労状 況	1 常勤	度数	6	61	157	41	175	440
		F 就労状況の%	1.4%	13.9%	35.7%	9.3%	39.8%	100.0%
	2 パート・アルバイト等	度数	13	161	402	97	314	987
		F 就労状況の%	1.3%	16.3%	40.7%	9.8%	31.8%	100.0%
	3 現在は職につ いていない	度数	11	102	310	105	320	848
		F 就労状況の%	1.3%	12.0%	36.6%	12.4%	37.7%	100.0%
合計		度数	30	324	869	243	809	2275
		F 就労状況の%	1.3%	14.2%	38.2%	10.7%	35.6%	100.0%

p<0.05



表20 子どもの前でけんかする夫婦関係と子どもの性の成熟度に対する保護者の認識との関係

		Q29 子どもの性に関する成熟					合計
		1 とても早い ほうだと思 う	2 やや早い ほうだと思 う	3 やや遅い ほうだと思 う	4 とても遅い ほうだと思 う	5 わからない (気がかけ たことが ない)	
Q21E 子どもの前でけんか	1 子どもの前でけんかしない	度数 14	164	502	143	449	1272
	Q21E 子どもの前でけんかの%	1.1%	12.9%	39.5%	11.2%	35.3%	100.0%
2 子どもの前でけんかしてしまう	度数	16	155	329	93	322	915
	Q21E 子どもの前でけんかの%	1.7%	16.9%	36.0%	10.2%	35.2%	100.0%
合計	度数	30	319	831	236	771	2187
	Q21E 子どもの前でけんかの%	1.4%	14.6%	38.0%	10.8%	35.3%	100.0%

p<0.05

表21 親子のつながり感と子どもの性の成熟度に対する保護者の認識との関係

		Q29 子どもの性に関する成熟					合計
		1 とても早い ほうだと思 う	2 やや早い ほうだと思 う	3 やや遅い ほうだと思 う	4 とても遅い ほうだと思 う	5 わからない (気がかけ たことが ない)	
Q6 親子のつながり感	1 十分に持っている	度数 11	126	378	114	369	998
	Q6 親子のつながり感の%	1.1%	12.6%	37.9%	11.4%	37.0%	100.0%
	2 ある程度持っている	度数 16	193	475	128	429	1241
Q6 親子のつながり感の%	1.3%	15.6%	38.3%	10.3%	34.6%	100.0%	
3 あまり持っていない	度数	5	11	24	7	18	65
	Q6 親子のつながり感の%	7.7%	16.9%	36.9%	10.8%	27.7%	100.0%
合計	度数	32	330	877	249	816	2304
	Q6 親子のつながり感の%	1.4%	14.3%	38.1%	10.8%	35.4%	100.0%

p<0.05

表22 子どもの学年と子どもの性の成熟度に対する保護者の認識との関係

		Q29 子どもの性に関する成熟					合計
		1 とても早い ほうだと思 う	2 やや早い ほうだと思 う	3 やや遅い ほうだと思 う	4 とても遅い ほうだと思 う	5 わからない (気がかけ たことが ない)	
H.H 学年変換(低・中・高学年別)	1 低学年(1-2年生)	度数 6	51	92	38	290	477
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	1.3%	10.7%	19.3%	8.0%	60.8%	100.0%
	2 中学年(3-4年生)	度数 8	111	249	79	303	750
H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	1.1%	14.8%	33.2%	10.5%	40.4%	100.0%	
3 高学年(5-6年生)	度数	16	165	534	132	217	1064
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	1.5%	15.5%	50.2%	12.4%	20.4%	100.0%
合計	度数	30	327	875	249	810	2291
	H.H 学年変換(低・中・高学年別)の%	1.3%	14.3%	38.2%	10.9%	35.4%	100.0%

p<0.01

表23 親子の性に関する会話

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 十分している	34	1.4	1.4	1.4
	2 ある程度している	534	22.1	22.8	24.2
	3 あまりしていない	1116	46.1	47.6	71.8
	4 まったくしていない	663	27.4	28.2	100
	合計	2347	96.9	100	
欠損値	システム欠損値	74	3.1		
合計		2421	100		

表24 保護者の就労状況と親子の性の会話との関係

			Q30 親子の性に関する会話				合計
			1 十分している	2 ある程度している	3 あまりしていない	4 まったくしていない	
F 就労状況	1 常勤	度数	8	105	199	132	444
		F 就労状況の%	1.8%	23.6%	44.8%	29.7%	100.0%
	2 パート・アルバイト等	度数	16	247	496	248	1007
		F 就労状況の%	1.6%	24.5%	49.3%	24.6%	100.0%
	3 現在は職についていない	度数	8	177	399	278	862
		F 就労状況の%	.9%	20.5%	46.3%	32.3%	100.0%
合計		度数	32	529	1094	658	2313
		F 就労状況の%	1.4%	22.9%	47.3%	28.4%	100.0%

p<0.05

表25 子どもの性別、回答者と親子の性に関する会話との関係

		1 父親								合計	
		Q30 親子の性に関する会話									
		1 十分している		2 ある程度している		3 あまりしていない		4 まったくしていない			
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%		
子どもの性別	1 男	1	1.2%	12	14.6%	43	52.4%	26	31.7%	82	100.0%
	2 女	0	0.0%	9	11.4%	30	38.0%	40	50.6%	79	100.0%
合計		1	0.6%	21	13.0%	73	45.3%	66	41.0%	161	100.0%
		2 母親								合計	
		Q30 親子の性に関する会話									
		1 十分している		2 ある程度している		3 あまりしていない		4 まったくしていない			
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%		
子どもの性別	1 男	10	0.9%	205	19.1%	527	49.0%	334	31.0%	1076	100.0%
	2 女	22	2.0%	302	28.0%	503	46.6%	253	23.4%	1080	100.0%
合計		32	1.5%	507	23.5%	1030	47.8%	587	27.2%	2156	100.0%
		3 その他								合計	
		Q30 親子の性に関する会話									
		1 十分している		2 ある程度している		3 あまりしていない		4 まったくしていない			
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%		
子どもの性別	1 男	0	0.0%	0	0.0%	3	42.9%	4	57.1%	7	100.0%
	2 女	0	0.0%	1	20.0%	3	60.0%	1	20.0%	5	100.0%
合計		0	0.0%	1	8.3%	6	50.0%	5	41.7%	12	100.0%

父親:有意差なし、母親:p<0.01

表26 親子のつながり感と親子の性の会話との関係

			Q30 親子の性に関する会話				合計
			1 十分している	2 ある程度している	3 あまりしていない	4 まったくしていない	
Q6 親子のつながり感	1 十分に持っている	度数	24	233	473	292	1022
		Q6 親子のつながり感の%	2.3%	22.8%	46.3%	28.6%	100.0%
	2 ある程度持っている	度数	10	294	608	342	1254
		Q6 親子のつながり感の%	.8%	23.4%	48.5%	27.3%	100.0%
	3 あまり持っていない	度数	0	7	31	27	65
		Q6 親子のつながり感の%	.0%	10.8%	47.7%	41.5%	100.0%
合計	度数	34	534	1112	661	2341	
	Q6 親子のつながり感の%	1.5%	22.8%	47.5%	28.2%	100.0%	

p<0.01

表27 ボランティア経験と親子の性の会話との関係

			Q30 親子の性に関する会話				合計
			1 十分している	2 ある程度している	3 あまりしていない	4 まったくしていない	
Q19 ボランティア活動	1 現在、活動している	度数	3	24	29	12	68
		Q19 ボランティア活動の%	4.4%	35.3%	42.6%	17.6%	100.0%
	2 以前、したことがある	度数	5	140	193	76	414
		Q19 ボランティア活動の%	1.2%	33.8%	46.6%	18.4%	100.0%
	3 まったくしたことがない	度数	20	315	755	507	1597
		Q19 ボランティア活動の%	1.3%	19.7%	47.3%	31.7%	100.0%
4 わからない	度数	3	43	100	51	197	
	Q19 ボランティア活動の%	1.5%	21.8%	50.8%	25.9%	100.0%	
合計	度数	31	522	1077	646	2276	
	Q19 ボランティア活動の%	1.4%	22.9%	47.3%	28.4%	100.0%	

p<0.01

表28 群れ遊びと親子の性の会話との関係

			Q30 親子の性に関する会話				合計
			1 十分している	2 ある程度している	3 あまりしていない	4 まったくしていない	
Q5 群れ遊びの状況	1 よくしている	度数	17	264	510	361	1152
		Q5 群れ遊びの状況の%	1.5%	22.9%	44.3%	31.3%	100.0%
	2 時々している	度数	11	182	397	198	788
		Q5 群れ遊びの状況の%	1.4%	23.1%	50.4%	25.1%	100.0%
	3 あまりしていない	度数	4	74	174	78	330
		Q5 群れ遊びの状況の%	1.2%	22.4%	52.7%	23.6%	100.0%
	4 まったくしていない	度数	2	14	33	20	69
		Q5 群れ遊びの状況の%	2.9%	20.3%	47.8%	29.0%	100.0%
	5 把握していない	度数	0	0	0	3	3
		Q5 群れ遊びの状況の%	.0%	.0%	.0%	100.0%	100.0%
合計	度数	34	534	1114	660	2342	
	Q5 群れ遊びの状況の%	1.5%	22.8%	47.6%	28.2%	100.0%	

p<0.01

表29 学校での性教育の把握状況

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 学校から知らされている	438	18.1	19	19
	2 友人から聞いている	131	5.4	5.7	24.7
	3 子どもから聞いている	567	23.4	24.6	49.3
	4 把握していない	1168	48.2	50.7	100
	合計	2304	95.2	100	
欠損値	システム欠損値	117	4.8		
合計		2421	100		

表30 学校性教育への希望

		命の大切さを伝えること	性について正しい知識をつけること	豊かな人間を形成すること	意図しない妊娠をさけること	望ましい異性親をもつこと	性行動の自己決定ができること	性に関する適切な情報を提供すること	
性別	男子	995人 (85.3%)	806人 (69.1%)	442人 (37.9%)	87人 (7.5%)	294人 (25.2%)	73人 (6.3%)	357人 (30.6%)	
	女子	973人 (84.0%)	795人 (68.7%)	413人 (35.7%)	126人 (10.9%) **	275人 (23.7%)	48人 (8.5%) *	339人 (29.3%)	
合計		1981人 (84.7%)	1607人 (68.7%)	862人 (36.8%)	214人 (9.1%)	577人 (24.7%)	172人 (7.4%)	699人 (29.9%)	
		性行動を低リスクにすること	性感染症率・妊娠率・人工妊娠中絶率を低下させること	避妊実行率・性感染症防止実行率を向上させること	性交開始年齢をできるだけ上昇させること	自己肯定感をつけること	コミュニケーション力をつけること	その他	合計
性別	男子	11人 (0.9%)	57人 (4.9%)	58人 (5.0%)	28人 (2.4%)	91人 (7.8%)	162人 (13.9%) *	14人 (1.2%)	3475人 (298.0%)
	女子	13人 (1.1%)	89人 (7.7%) **	53人 (4.6%)	41人 (3.5%)	89人 (7.7%)	127人 (11.0%)	15人 (1.3%)	3446人 (297.6%)
合計		24人 (1.0%)	146人 (6.2%)	112人 (4.8%)	71人 (3.0%)	180人 (7.7%)	290人 (12.4%)	30人 (1.3%)	6965人 (297.6%)

(性差に有意差あり: \*\*...p<0.01, \*...p<0.05)

(全体: N=2340、男子: N=1166、女子: N=1158)

表31 親子の会話の頻度と Q32-1 命の大切さを伝えることとの関係

			Q32-1 命の大切さを伝えること		合計
			0 非選択	1 選択	
Q01 親子の会話の頻度	1 よく話しをする	度数 Q01 親子の会話の頻度の%	289 14.5%	1700 85.5%	1989 100.0%
	2 時々話しをする	度数 Q01 親子の会話の頻度の%	64 19.8%	259 80.2%	323 100.0%
	3 ほとんど話しをしない	度数 Q01 親子の会話の頻度の%	5 29.4%	12 70.6%	17 100.0%
合計	度数 Q01 親子の会話の頻度の%	358 15.4%	1971 84.6%	2329 100.0%	

p<0.01

表32 回答者と Q32-2 性について正しい知識を伝えることとの関係

			Q32-2 性について正しい知識を伝えること		合計
			0 非選択	1 選択	
A 回答者	1 父親	度数 A 回答者の%	71 44.1%	90 55.9%	161 100.0%
	2 母親	度数 A 回答者の%	658 30.4%	1505 69.6%	2163 100.0%
	3 その他	度数 A 回答者の%	3 25.0%	9 75.0%	12 100.0%
合計	度数 A 回答者の%	732 31.3%	1604 68.7%	2336 100.0%	

p<0.01

表33 保護者の年齢と Q32-3 豊かな人間を形成することとの関係

			Q32-3 豊かな人間を形成すること		合計
			0 非選択	1 選択	
B.B 年齢変換(年代別)	1 20歳代	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	24 72.7%	9 27.3%	33 100.0%
	2 30歳代	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	671 65.1%	359 34.9%	1030 100.0%
	3 40歳代	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	707 61.8%	437 38.2%	1144 100.0%
	4 50歳代以上	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	27 41.5%	38 58.5%	65 100.0%
合計	度数 B.B 年齢変換(年代別)の%	1429 62.9%	843 37.1%	2272 100.0%	

p<0.01

表34 親子のつながり感とQ32-3 豊かな人間を形成することとの関係

			Q32-3 豊かな人間を形成すること		合計
			0 非選択	1 選択	
Q6 親子のつながり感	1 十分に持っている	度数	619	406	1025
		Q6 親子のつながり感の%	60.4%	39.6%	100.0%
	2 ある程度持っている	度数	807	436	1243
		Q6 親子のつながり感の%	64.9%	35.1%	100.0%
	3 あまり持っていない	度数	46	18	64
		Q6 親子のつながり感の%	71.9%	28.1%	100.0%
合計	度数	1472	860	2332	
	Q6 親子のつながり感の%	63.1%	36.9%	100.0%	

p<0.05

表35 子どもの性の発達に関する困りごとと Q32-4 意図しない妊娠を避けることとの関係

			Q32-4 意図しない妊娠を避けること		合計
			0 非選択	1 選択	
Q26 子どもの性の発達について	1 とても困っている	度数	7	4	11
		Q26 子どもの性の発達についての%	63.6%	36.4%	100.0%
	2 ある程度困っている	度数	107	17	124
		Q26 子どもの性の発達についての%	86.3%	13.7%	100.0%
	3 あまり困っていない	度数	1254	131	1385
		Q26 子どもの性の発達についての%	90.5%	9.5%	100.0%
	4 まったく困っていない	度数	740	61	801
		Q26 子どもの性の発達についての%	92.4%	7.6%	100.0%
合計	度数	2108	213	2321	
	Q26 子どもの性の発達についての%	90.8%	9.2%	100.0%	

p<0.01

表36 子どもの性の成熟度に対する保護者の認識と Q32-4 意図しない妊娠を避けることとの関係

			Q32-4 意図しない妊娠を避けること		合計
			0 非選択	1 選択	
Q29 子どもの性に関する成熟	1 とても早いほうだと思う	度数	25	6	31
		Q29 子どもの性に関する成熟の%	80.6%	19.4%	100.0%
	2 やや早いほうだと思う	度数	285	44	329
		Q29 子どもの性に関する成熟の%	86.6%	13.4%	100.0%
	3 やや遅いほうだと思う	度数	788	81	869
		Q29 子どもの性に関する成熟の%	90.7%	9.3%	100.0%
	4 とても遅いほうだと思う	度数	233	16	249
		Q29 子どもの性に関する成熟の%	93.6%	6.4%	100.0%
	5 わからない(気にかけたことがない)	度数	749	63	812
		Q29 子どもの性に関する成熟の%	92.2%	7.8%	100.0%
合計	度数	2080	210	2290	
	Q29 子どもの性に関する成熟の%	90.8%	9.2%	100.0%	

p<0.05

表37 親子の性の会話と Q32-9 性感染症率・妊娠率・人工妊娠中絶率を低下させることとの関係

			Q32-9 性感染症率・妊娠率・人工妊娠中絶率を低下させること		合計
			0 非選択	1 選択	
Q30 親子の性に関する会話	1 十分している	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	28 82.4%	6 17.6%	34 100.0%
	2 ある程度している	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	491 92.5%	40 7.5%	531 100.0%
	3 あまりしていない	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	1047 94.6%	60 5.4%	1107 100.0%
	4 まったくしていない	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	615 94.0%	39 6.0%	654 100.0%
合計	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	2181 93.8%	145 6.2%	2326 100.0%	

p<0.05

表38 親子の性の会話と Q32-12 自己肯定感をつけることとの関係

			Q32-12 自己肯定感をつけること		合計
			0 非選択	1 選択	
Q30 親子の性に関する会話	1 十分している	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	28 82.4%	6 17.6%	34 100.0%
	2 ある程度している	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	486 91.4%	46 8.6%	532 100.0%
	3 あまりしていない	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	1016 91.8%	91 8.2%	1107 100.0%
	4 まったくしていない	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	620 94.8%	34 5.2%	654 100.0%
合計	度数 Q30 親子の性に関する会話の%	2150 92.4%	177 7.6%	2327 100.0%	

p<0.01

表39 子どもの性の発達についてとQ32-13 コミュニケーション力をつけることとの関係表

			Q32-13 コミュニケーション力をつけること		合計
			0 非選択	1 選択	
Q26 子どもの性の発達について	1 とても困っている	度数 Q26 子どもの性の発達についての % Q32-13 コミュニケーション力をつけることの %	5 45.5% .2%	6 54.5% 2.1%	11 100.0% .5%
	2 ある程度困っている	度数 Q26 子どもの性の発達についての % Q32-13 コミュニケーション力をつけることの %	116 93.5% 5.7%	8 6.5% 2.8%	124 100.0% 5.3%
	3 あまり困っていない	度数 Q26 子どもの性の発達についての % Q32-13 コミュニケーション力をつけることの %	1218 87.9% 59.9%	167 12.1% 58.2%	1385 100.0% 59.7%
	4 まったく困っていない	度数 Q26 子どもの性の発達についての % Q32-13 コミュニケーション力をつけることの %	695 86.8% 34.2%	106 13.2% 36.9%	801 100.0% 34.5%
合計			2034 87.6% 100.0%	287 12.4% 100.0%	2321 100.0% 100.0%

p<0.01

表40 性の成熟度に対する保護者の認識と子どもの性の関心度に対する保護者の認識 との関係

		Q28_28 性の関心度								合計	
		1 とても持っている		2 ある程度持っている		3 あまり持っていない		4 まったく持っていない			
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
Q29_29 性の成熟度	1 とても早いほうだと思う	13	43.3%	14	46.7%	1	3.3%	2	6.7%	30	100.0%
	2 やや早いほうだと思う	18	5.8%	216	69.0%	76	24.3%	3	1.0%	313	100.0%
	3 やや遅いほうだと思う	3	0.4%	251	30.1%	514	61.6%	66	7.9%	834	100.0%
	4 とても遅いほうだと思う	0	0.0%	28	12.3%	117	51.3%	83	36.4%	228	100.0%
合計		34	2.4%	509	36.2%	708	50.4%	154	11.0%	1405	100.0%

p<0.01



表41 親子の性の会話と子どもの性の発達に関する困りごととの関係

		Q26 子どもの性の発達について								合計	
		1 とても困っている		2 ある程度困っている		3 あまり困っていない		4 まったく困っていない			
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
Q30 親子の性に関する会話	1 十分している	1	3.0%	1	3.0%	11	33.3%	20	60.6%	33	100.0%
	2 ある程度している	0	0.0%	33	6.2%	331	62.1%	169	31.7%	533	100.0%
	3 あまりしていない	6	0.5%	72	6.5%	728	65.9%	299	27.1%	1105	100.0%
	4 まったくしていない	5	0.8%	17	2.6%	323	49.1%	313	47.6%	658	100.0%
合計		12	0.5%	123	5.3%	1393	59.8%	801	34.4%	2329	100.0%

p<0.01

## 学校における性教育の目的と連携に関する実態調査

三 根 有紀子	福岡県立大学看護学部女性看護学講座
樋 口 善 之	福岡県立大学看護学部地域看護学講座
石 村 美由紀	福岡県立大学看護学部女性看護学講座
安河内 静 子	福岡県立大学看護学部女性看護学講座
浅 野 美智留	福岡県立大学看護学部女性看護学講座
鳥 越 郁 代	福岡県立大学看護学部女性看護学講座
古 田 祐 子	福岡県立大学看護学部女性看護学講座
松 浦 賢 長	福岡県立大学看護学部地域看護学講座

学校性教育の目的と課題を把握するために小・中・高校の性教育担当者を対象に質問紙を用いた調査を実施した。対象地域は、福岡県の田川市郡である。回答は 38 校から得られ回収率は 60.3%であった。性教育の目的として小・中・高校を通じて「命の大切さ」「知識」が挙げられており、その他に小学校では「人間形成」、中・高校では「性行動の自己決定」が多く挙げられていた。性教育の評価は「作文または感想」が最も多くを占めた。性教育は小・中・高校を通じて「授業科目」として行われていたがその科目担当者は様々であった。小・中・高校とあがるにつれて外部講師を招いて性教育に取り組む学校の割合、相談できる外部専門家がいる学校の割合は増加していたが全体でみると相談できる外部専門家がいる学校は半分以下であった。性教育を担当する教員の多くは性教育を進める上で「他教員への働きかけ」を行っていたが「家庭との連携」「専門家の活用」を行っていたのは半数以下であり、特に中・高校は小学校に比して「家庭との連携」を行っている割合が低かった。また実際に性教育を担当する教員は性教育に対する難しさや限界を感じていた。

以上より学校別にその目的に応じて性教育の展開がなされてはいるが継続性、一貫性の薄さや連携の少なさなどが明らかとなり、学校があげている性教育の目的達成に対する現在の性教育の限界が示唆された。

### 1. 目的

厚生労働省による母体保護統計報告によればわが国の 20 歳未満の人工妊娠中絶率は 2001 年には女子人口千対 13.0 と過去最高を示し、その後 2002 年は 12.8 とやや減少しているものの依然高い状況にある<sup>1)</sup>。

中でも福岡県は北海道、東京について 3 番目に人工妊娠中絶数が多い<sup>1)</sup>。さらに福岡県内の平成 8～10 年の田川市郡のデータを見ると全出生に占める 20 歳未満の母親の出生割合は 6.08%であり、福岡県の 1.96%、全国の 1.45%と比較しても高い<sup>2)</sup>。また、20 歳未満の人工妊娠中絶に関しても

平成 10 年の福岡県の 11.0(女子人口千対)に比して田川地区は 16.6 と高かった<sup>2)</sup>。このように田川市郡の 10 代出産、人工妊娠中絶は全国の平均と比較して高い状況にある。

このような近年の母子保健問題に対応するために 2000 年から母子保健の国民運動計画「健やか親子 21」が取り組まれている。その主要課題のひとつに「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」は挙げられ、取り組みの目標の中に 10 代の人工妊娠中絶(減)、10 代の性感染症罹患率(減)、避妊法を正確に知っている 18 歳の割合(100%)、性感染症を正確に知っている高校生の割合(100%)が挙げられている。また、これらの取り組みの方向性として十分な量的拡大(学校や保健所における相談体制の強化など)と質的転換(学校外の専門家などの協力を得た取り組みの推進など)を図ることが不可欠とされており各種対策が十分な連携のもとに推進される必要があるとしている<sup>3)</sup>。

このような状況を踏まえ今後家庭や地域を中心とした 10 代妊娠(中絶)予防対策を行政プロジェクトとして展開していくために今回、田川市郡の学校の性教育担当者を対象に小・中・高校における性教育の実態を調査したので報告する。

## II. 研究方法

平成 15 年 2 月から平成 16 年 2 月にかけて、福岡県田川市郡のすべての小学校 36 校、中学校 20 校、高等学校 7 校、計 63 校に質問紙調査を実施した。回答者は「性教育の主な担当者」として設定しその職位を尋ねた。調査は学校長宛に封書で質問紙を配布し、回収は郵送で行った。

調査内容は回答者の属性、性教育の目的と評価方法、性教育の形態(授業科目か特別活動)、性教育担当者の内訳、性教育の内容(授業科目、特別活動、外部講師の行う特別活動)、家庭や外部の専門家との連携状況(連携内容、連携方法)、性教育についての考え方(性教育の必要性、性教育を行う時期、取り組み方に関する現状や希望)について選択肢と自由記述を組み合わせた自作の質問 24 項目から構成した。

なお、調査は無記名で行い同封の依頼文にて研究目的と研究結果の活用について説明した。

## III. 結果・考察

### 1. 回答者の属性

回答は 38 校から得られ、回収率は 60.3%であった。内訳は小学校 17 校(44.7%)、中学校 16 校(42.1%)、高校 5 校(13.2%)であった。回答者の性別は男性 6 名、女性 32 名で年齢は 20 歳代が 2 名(5.3%)、30 歳代 10 名(26.3%)、40 歳代 17 名(44.7%)、50 歳代 9 名(23.7%)であった。回答者の職位は小学校 17 校のうち 7 校(41.2%)が「養護教諭」、7 校(41.2%)が「家庭科教諭」であり、中学校 16 校のうち 10 校(62.5%)が「養護教諭」、4 校(25.0%)が「家庭科教諭」であった。高校 5 校はすべて「養護教諭」が回答していた。全体の回答者のうち、22 名(57.9%)が「養護教諭」であった。

### 2. 学校性教育の現状

#### 1) 性教育の目的・評価

学校で行う性教育の目的(図 1)について 3 つまで回答を求めたところ、38 校中 29 校(76.3%)が「命の大切さを伝えるため」、28 校(73.7%)が「性についての正確な知識を伝えるため」と回答した。ついで「豊かな人間

形成のため」15校(39.5%)、「自己肯定感をつけるため」12校(31.6%)、「性行動の自己決定ができるようになるため」10校(26.3%)であった。

さらに小・中・高校別に目的の詳細(表1)を見たところ、小学校では「命の大切さを伝えるため」が17校中16校(94.1%)、「豊かな人間形成のため」12校(70.6%)、「性についての正確な知識を伝えるため」11校(64.7%)が多くを占めた。中学校は「性についての正確な知識を伝えるため」13校(81.3%)、「命の大切さを伝えるため」11校(68.8%)と回答した学校が半数以上を占めた。高校においては5校中4校(80.0%)が「性についての正確な知識を伝えるため」、「性行動の自己決定ができるようになるため」3校(60.0%)と回答した学校が半数以上を占めた。

「望まない妊娠を避けるため」「性感染率・妊娠率・中絶率の低下のため」といった内容は小学校では見られなかったが中学校、高校ではそれぞれ5校(10.4%)、3校(20.0%)であった。

性教育の目的が達成されたかを評価する方法(図2)として小・中学校では「作文または感想」がそれぞれ16校(94.1%)、13校(81.3%)で最も多く、ついで「評価は特にしていない」という回答がそれぞれ4校(23.5%)、4校(25.0%)であった。高校は5校中2校(40.0%)が「評価は特にしていない」という回答であったが、他は「作文または感想」「長期的な性行動フォローアップ」「ペーパーテスト」という回答に分散した。

これらより学校が目的としている性教育は「命の大切さを伝える」「正確な知識を伝える」ことを中心とした教育であることがわかった。しかしながら学校別に見ると上

記2項目に加えて小学校では「豊かな人間形成」、中学校・高校では「性行動の自己決定ができるようになるため」と回答した学校の割合が多くなっており、小・中・高校でその目的の重みが変わっていくことがわかった。また、性教育の評価方法として「作文または感想文」が多くを占めていたのは性教育が「命の大切さ」や「豊かな人間形成」を目的として行われているためではないかと考えられる。これらの評価として「作文」「感想文」が適している、あるいはこれに頼っている状況ではないかと推察される。しかしながら「正確な知識」や「自己決定」を「作文」「感想文」で評価するのは難しいと考える。

## 2) 学校性教育の取り組み方法

性教育の取り組み方法(図3)は小学校では「授業科目」として取り組んでいるところが15校(88.2%)、「学内教員による特別活動」として取り組んでいるところが14校(82.4%)でほとんどの学校が「授業科目」「学内教員による特別活動」として取り組んでいた。同様に中学校・高校も「授業科目」として取り組んでいるところがそれぞれ16校中14校(87.5%)、5校中4校(80.0%)であり「授業科目」として取り組んでいる割合が多かった。しかし中学校、高校と学年があがるにしたがって「学内教員による特別活動」の割合は減少していき、逆に「外部講師による特別活動」の割合は増加し高校では4校(80.0%)と「授業科目」の4校(80.0%)と同様に多かった。

次にこれら学内における性教育の担当者と性教育の内容を尋ねた。

授業科目として取り組んでいる場合の性教育担当者(図4)は小学校では「担任」12校